

かわまちづくり整備地区における 地域主体のにぎわいに関する一考察

Consideration for Community-led Prosperity in Waterfront Utilization Development Districts

まちづくり・防災グループ	次 長	竹内 秀二
自然環境グループ	主任研究員	都築 隆禎
まちづくり・防災グループ	研 究 員	阿 部 充
まちづくり・防災グループ	研 究 員	松尾 峰樹
企画グループ	グループ長	柏木 才助
	主席研究員	光橋 尚司

地域と連携してまちづくりと一体となった河川や水辺の整備・利活用を推進する「かわまちづくり支援制度」により、平成30年6月現在全国で191箇所の「かわまちづくり」が登録されている。本制度のもとで地域の方々や利用者の視点から河川管理施設や利用施設等のハード整備が進められている箇所では、地域の「資源」や「知恵」を活かして河川や水辺の利活用が一層促進される取組みが期待されている。

本稿では、茨城県と栃木県を流れる那珂川の中流部にある、かわまちづくり登録を経て整備された「かつら地区（茨城県城里町）」で行われている季節のイベントの内容とアンケート調査結果を報告する。イベントには、複数人数で家族や知人グループでの参加が多く、竹炭などの特徴的体験があると地元以外にも広い範囲からの参加が認められた。移動手段は毎回を通じて全員が自家用車であった。自由意見では、自然体験、環境学習、おいしい地元食材に対する喜びの声が寄せられ、アスレチックや体験への要望が記載されていた。

キーワード：かわまちづくり、にぎわい、利用者、自然、環境、学習、体験、アンケート調査、意見

Through the Waterfront Utilization support system, which promotes development and utilization of rivers and waterfronts together with urban development in corporation with communities, 191 Waterfront Utilization districts are registered nationwide as of June 2018. In the areas where development of hardware including river management and utilization facilities are proceeded from the viewpoint of community people and users under this system, efforts to use the resources and know-how in the communities to further promote the utilization of rivers and waterfronts are expected.

In this article, we will report the details of seasonal events that take place in the Katsura district (Shirosato Town, Ibaraki), which is located at the middle reaches of Naka River that runs through Ibaraki and Tochigi Prefectures and has been developed through Waterfront Utilization, as well as questionnaire results. Many groups consisting of multiple people including families and acquaintances participated in the events. For characteristic hands-on events such as a bamboo charcoal event, the participation of not only local people but also the people from the wider area was acknowledged. All the participants used their own cars as the transportation means in all the events. In the comments received, people told us they were pleased about the hands-on nature events, environmental learning, and delicious local foods as well as requests for athletics events and more hands-on events.

Keywords: *Waterfront Utilization, prosperity, users, nature, environment, learning, hands-on event, questionnaire, opinions*

1. はじめに

「かつら地区かわまちづくり」の計画は、平成 22 年度から茨城県的那珂川中流部で城里町・道の駅かつら・常陸河川国道事務所によって構成される「事務局会議」において、イベントの試行も交えながら検討が行われてきた。

そして、平成 25 年 3 月 29 日の国土交通省報道発表において「登録」が公表され、これを受けて「那珂川・城里町御前山地区かわまちづくり推進協議会」（以下「協議会」という）が平成 25 年 6 月 3 日に設立された。

協議会の構成は、地域住民、道の駅かつら、農業協同組合、漁業協同組合、観光協会、商工会、国土交通省常陸河川国道事務所、茨城県、城里町などによる。

平成 26 年度からハード整備に着手し、緩傾斜護岸、管理用通路、遊歩道、水道を整備し、平成 30 年度には、城里町が最後のハード整備であるトイレ整備などに着手している。

ハード整備に着手した平成 26 年度から、道の駅かつらを中心に年間 2～4 回の季節のイベントを開催している。

本報告では、平成 29 年度に開催した「夏イベント」と「秋イベント」について開催内容とアンケート調査結果について報告する。



写真－1 夏の水際の利用状況（かつら地区）

2. 「夏イベント」の内容

2-1 開催概要

開催概要は次の通りである。

(1) テーマ

水生生物調査と城里町のおいしいものを食べよう

(2) 企画内容

- ・水生生物調査と水質調査
- ・城里産品を使ったバーベキュー

(3) 目的

バーベキューを通して、参加者に農産物をご賞味いただき、城里産の農産品をアピールする。

(4) 開催日時

平成 29 年 8 月 26 日（土）10:00～13:30

(5) 開催場所

- ・水生生物調査：河原、緩傾斜護岸（増水や荒天候の場合は護岸のみ）
- ・バーベキュー：東屋を中心とした手ぶらでバーベキューを行うスペース

(6) 参加人数（事前申し込み制）

67 名（大人：32 名、子ども：35 名）

(7) 主催

那珂川・城里町御前山地区かわまちづくり推進協議会

2-2 役割分担

協議会メンバーは、次の役割分担のもとイベント運営に携わった。

表－1 役割分担

道の駅かつら	チラシ・ポスター 保険申込 (100 人規模 多めの申し込み) バーベキュー食材、機材関係一式
城里町	受付関係一式 救急箱
常陸河川国道事務所 (河川管理者)	水生生物関係一式 事業紹介パネル展示 定例実施のアンケート ※洪水や増水等の河川の状況の判断：増水時には入水をしない計画で行う。

2-3 広報活動

協議会メンバーは、次のような役割分担のもと広報活動に携わった。なお、事前の問い合わせ先は城里町、当日の問い合わせ先は道の駅、中止時は道の駅 HP・ツイッターで告知する体制をとった。

表-2 広報活動の実施手法

広報媒体	実施手法
ポスター・チラシ	ポスター：A2 サイズ 20 枚 (道の駅 7、城里町 8、国 3、茨城県 2) チラシ：A4 サイズ両面 1000 枚 (道の駅 450、城里町 250、国 150、茨城県 150) + 近隣市町 + 県内道の駅) ※近隣市町への配付は城里町より茨城県へ依頼
町・県・国のHP	適宜実施
道の駅 HP・SNS	HP や SNS で積極的告知 いこーよ、イベントバンク等のイベント告知ポータルへ登録
その他	防災協定締結の江戸川区やその他で積極的な告知活動

表-3 当日のプログラム

時間	実施内容
10:00	開会・挨拶・説明
10:10	水生生物調査 説明 河原へ移動、採取 護岸へ移動、まとめ
12:10	バーベキュー ・アンケート記入 ・地元野菜などを味わう
13:30	終了・解散

2-4 開催状況



図-1 夏イベントのチラシ

当日の開催状況は次の通りである。





魚を採取した子供たち

熱心に質問する子供たち

集合写真（緩傾斜護岸で）

写真－２ 開会から生物調査時の風景



バーベキューの準備風景

バーベキュー時の風景

写真－３ バーベキュー時の風景

タマネギ、トマト、カボチャが焼き野菜ベスト3

3. 「秋イベント」の内容

3-1 開催概要

開催概要は次の通りである。

(1) テーマ

御前山ハイキングと竹炭焼き体験！生産者と一緒
においしい新米とあったか豚汁！！

- ・水生生物調査と水質調査
- ・城里産品を使ったバーベキュー

(2) 企画内容

①ハイキング

- ・御前山のハイキング
- ・地域の観光資源のPR

②竹炭焼き体験

- ・河岸の竹林より伐採した竹で竹炭を焼く
- ・ハイキング前に自分の竹をセッティング
- ・ハイキング後に焼きあがった竹炭を取り出し鑑賞、配布

③新米・豚汁ふるまい

- ・生産者がつくった新米と豚汁をふるまう

(3) 目的

河川内の竹林除去の必要性、自然の循環型社会の認識をしてもらう

(4) 開催日時

平成 29 年 12 月 10 日（日）10:00～13:00

(5) 開催場所

ハイキング：御前山

竹炭焼き体験：道の駅かつらバーベキュー場

新米・豚汁ふるまい：道の駅かつらバーベキュー場

(6) 参加人数（事前申し込み制）

44 名

(7) 主催

那珂川・城里町御前山地区かわまちづくり推進協議会

3-2 役割分担

協議会メンバーは、次の役割分担のもとイベント運営に携わった。

表－４ 役割分担

担当	役割
道の駅かつら	チラシ・ポスター ハイキング先導者手配 保険申込（59 人参加 多めの申込み） 新米・豚汁食材一式 竹炭の特長、使い方のレジメ、竹炭持ち帰りの袋 会場関係（テント・机・椅子等）、アンケート箱 領収証・釣銭
城里町	受付関係一式 救急箱 城里町観光案内
常陸河川国道事務所	竹炭焼き材料・道具一式（ドラム缶、竹炭焼き缶等） 事業紹介パネル展示 アンケート

3-3 広報活動

協議会メンバーは、夏イベントと同じ役割分担のもと広報活動を実施した。なお、事前の問い合わせ先は城里町、当日の問い合わせ先は道の駅、中止時は道の駅 HP・ツイッターで告知する体制をとった。

3-4 開催状況



図-2 秋イベントのチラシ

当日の開催状況は次の通りである。



写真-4 準備から竹炭完成風景

表-5 当日のプログラム

時間	実施内容
10:00	開会・挨拶・説明
10:10	竹炭焼きセット ・参加者が竹を缶にセット ・缶に名前を書く ・担当が竹炭焼き開始
10:30	ハイキング ・記念撮影 ・準備体操 ・2班に分け、ハイキング開始 (全行程 3.7km)
11:50	竹炭取り出し 自分のセットした缶から竹炭を取り出す 参加者が持ち帰る
12:10	新米・豚汁 事前に炊飯、豚汁用意 ・アンケート記入 ・それぞれの参加者が賞味
13:00	終了・解散

4. イベント参加者へのアンケート調査

各イベント時の参加者を対象とする。

参加者数は、夏イベントは 67 名、秋イベントは 44 名であった。

(1) 調査方法

- ・夏イベント時は、バーベキューが始まる前にアンケート用紙を配布し、記入してもらった。バーベキュー終了時を見計らって、参加者のもとをまわり回収した。
- ・秋イベント時は、豚汁配布に先立ちアンケート用紙を配布し、記入してもらった。食事が終わるタイミングを見計らって、参加者のもとをまわり回収した。

(2) 回収数 (回収率)

- ・夏イベント時は、回収数 21 (66 %) / 大人人数
- ・秋イベント時は、回収数 44 (100 %)

(3) 様式

夏イベント、秋イベントともに参加者に対してアンケート調査を実施した。ただし、夏季は町と国でそれぞれにアンケートを実施したが、秋季は、聞きたい項目を事前調整して一つのアンケートにして実施した。

(4) アンケート結果

夏イベントと秋イベントの違いは、時期と内容である。夏は、8月26日土曜日に「水生生物調査」「バーベキュー」、秋は、12月10日日曜日に「ハイキング」「竹炭焼き」「豚汁」を行った。それぞれのアンケート結果を並べて見た。

参加者の内訳をみると、夏は、夏休み中の開催で川の勉強という内容のためか半数以上を子どもが占めた。アンケート回答者の8割が20代・30代なのは親世代であった。秋は、50代・60代が半数を占め、子どもは少なかった。グループの属性では、夏秋共に知人と家族で9割であったが、グループの人数は、夏は5人以上が71%、秋は2人3人が65%であった。

参加者の居住地を見ると、夏は、城里町と近隣地域が7割であったが、秋は、ほかの地域が7割となった。来訪手段（未掲載）は全て自家用車であった。

前年度イベントに参加していないのは、夏秋共に8割であった。開催情報源は、夏は知人口コミが55%、秋はチラシ・ポスターが50%であった。

- ・20代・30代で 81% → 10%
- ・50代・60代で 0% → 50%

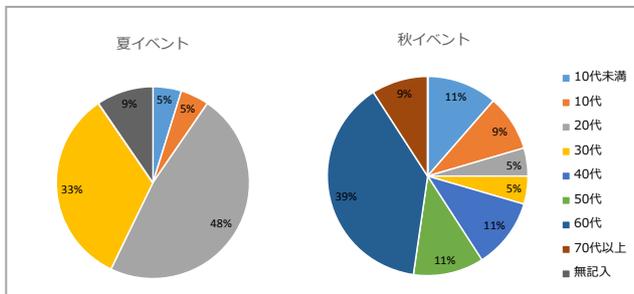


図-3 年齢分布

- ・女性 62% → 43%
- ・男性 19% → 43%

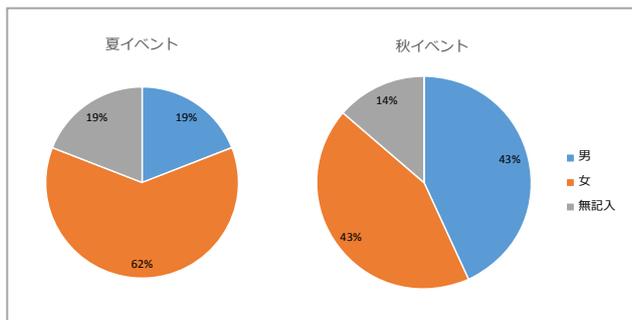


図-4 性別

- ・城里町と隣接地域 67% → 32%
- ・その他の地域 33% → 68%

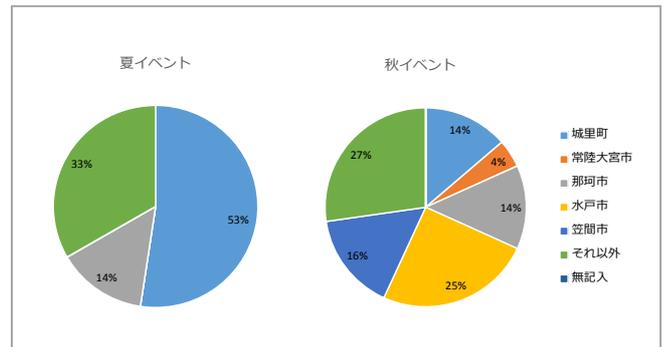


図-5 居住地

- ・「初めて」 14% → 20%
- ・「年に数回」 52% → 52%

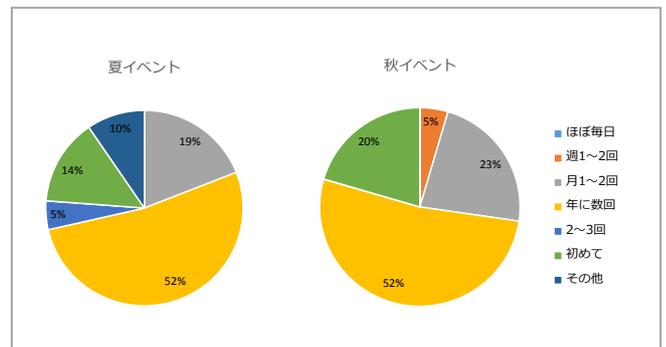


図-6 訪問頻度

- ・「知人」・「家族」 92% → 91%

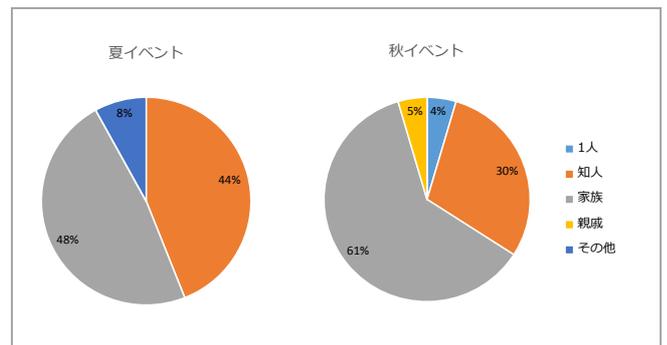


図-7 グループの属性

- ・「5人以上」 71% → 16%
- ・「2人」「3人」 15% → 65%

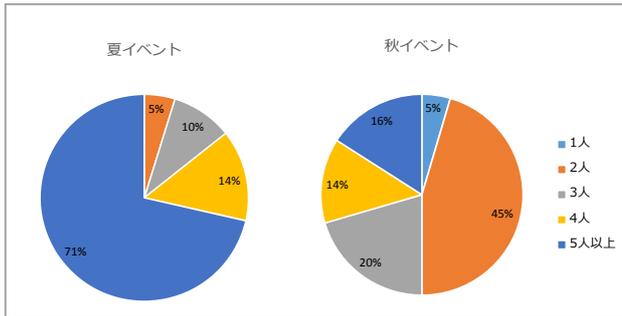


図-8 グループの人数

- ・「広くしてほしい」 25% (夏と冬の合計値)

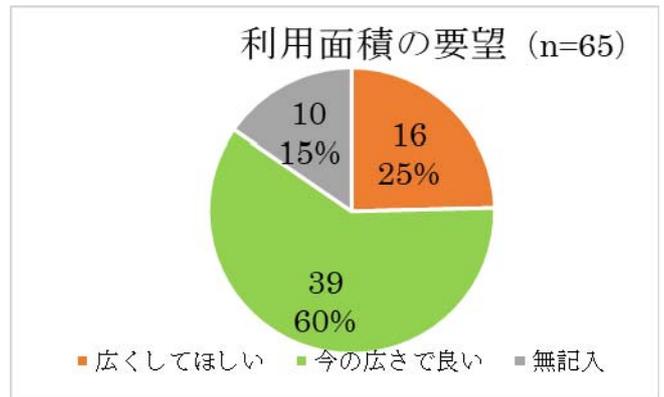


図-12 利用面積の要望 (夏と冬の合計値)

- ・「知人口コミ」 55% → 26%
- ・「チラシ」「ポスター」 9% → 50%

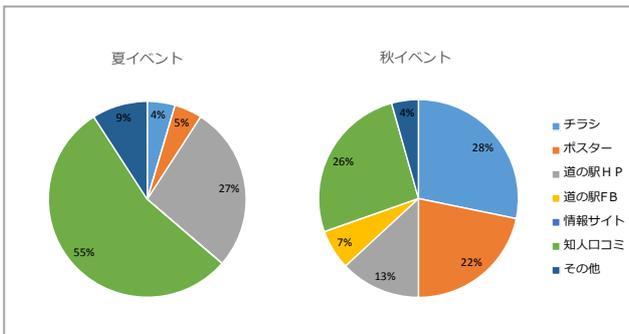


図-9 イベント開催情報源

- ・設備の要望は、多い順に、トイレ、ベンチ、洗い場、次いで、木陰、となった。

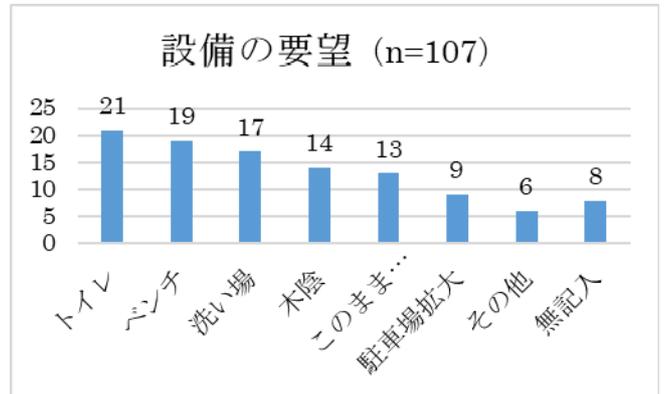


図-13 設備の要望 (夏と冬の合計値)

- ・昨年度に「参加していない」 81% → 82%

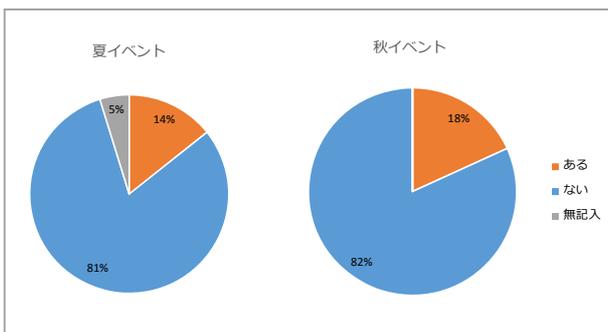


図-10 昨年度の同イベント参加状況

- ・「とても満足」 67% → 82%

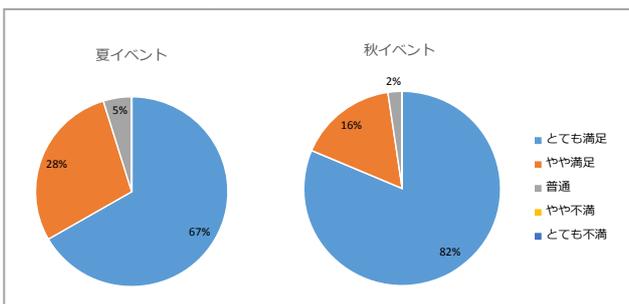


図-11 イベント参加の満足度

アンケートの最後に、自由回答として記載していた「今回参加して「満足したこと」、「要望」、「次回実施してほしい催し物」では、ほとんどが満足の内容の記載であった。以下に主な内容を示す。

- ・おにぎりがおいしい (夏、秋共に大人気)
- ・水生生物探索、バーベキュー(野外食事が楽しい)
- ・アスレチック(野外で地形や木立を利用した運動用施設)をしたい
- ・作業や調理の体験もしたかった
- ・洗い場の場所などがわかりにくかった
- ・ハイキングのくつ装備に感覚の差がある

これらの自由回答から考えられる改善のアイデアとしては、

- ・木陰で座れるベンチを設置する
- ・わかりやすい場所に使いやすい洗い場を設置する
- ・水辺から道の駅全体の統一した案内板を設置する
- ・水辺から道の駅への移動しやすい動線を確保する

- ・きれいで使いやすいトイレを設置する
 - ・わかりやすい具体的なイベント情報を発信する
 - ・周辺の資材（例えば竹など）を活用した作業を体験するイベントを実施する
 - ・地形や木立を利用した運動を提案する
 - ・おいしい地元食材を知ってもらう
- 等が考えられる。



図-1-4 かわまちづくり×道の駅かつら



図-1-5 竹炭焼き体験

5. 考察

整備されたかわまちづくり施設を活用して、地域経済に寄与するために、地元城里町が中心となり、道の駅かつら、茨城県、河川管理者がアイデアを出し、役割を話し合っって協働して活動を継続している。

かつら地区では、今回紹介した夏・秋イベント以外にも、青空カフェ、川魚つかみ取り、カヌーフェスティバル、水生生物観察、自然観察会、ハイキング、バーベキュー、サケ稚魚放流などのイベント活動を展開してきている。

その中には、地元生産者や民間団体と共催になって大きな規模で開催しているものもある。今後は、地域の民間事業者の意見や参画も取り入れることで、地域経済の発展に寄与するより善い活動の実現につ

ながることが期待される。

6. おわりに

那珂川は、河口の茨城県大洗町から上流の栃木県まで清流が貫いていて、その町ごとに自然、歴史、文化を訪ねることができます。四季の景色を楽しみに那珂川へ行きましょう。おいしいものもたくさんあります。

平成30年3月には、冬イベントとして、東京の江戸川区からも多くの家族連れが参加して、サケ放流体験、竹炭焼きなどが行われました。

なお、アンケート調査は、国土交通省常陸河川国道事務所の平成29年度久慈川那珂川かわまちづくり検討業務を当研究所が受託して実施したものである。



図-1-6 冬イベントのチラシ